

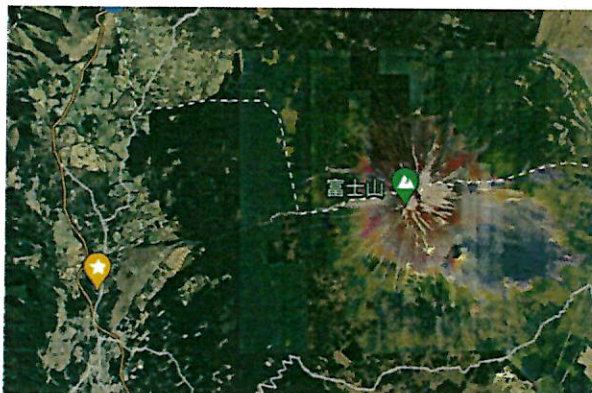
朝霧高原の酪農

9月頭に夏休みをいただき、親戚の結婚式のために静岡へ帰省してきました。

地元には何気なく過ごしていたけれども、富士の中腹に広がるだっ広い景色が、普段診療している景色とそっくりでありあまり帰った気がしませんでした（笑）

自分はこういう風通しの良い広大な風景に縁があるのだと思いました。そして、せっかくなので自分のいた地域と今いる地域についてすごく簡単に比較してみようかと思えます。（書き終わってみたらほぼほぼ地元の紹介になってしまいました。）

朝霧高原はB級グルメの富士宮（ふじのみや）焼きそばで有名になった街である富士宮市の北側に位置し、山梨県との県境に面しています。高原とつくだけあり、標高は700～1000mくらいです。山で言うと西別岳は標高約800m、武佐岳は標高約1000mです。松本清張で有名な青木ヶ原樹海もすぐ側です。幹線道路を走れば、上風連のように鹿がめちゃくちゃ飛び出してきました。数年前には長渕剛の10万人ライブが行われました。ライブの打ち上げ花火で牛がかなりびっくりしていたのを覚えています。



（ちなみに、☆は私の実家です。富士山頂まで遊覧物がほぼありません。）

気候的には朝霧高原は標高が高いため冷涼で、周囲の地形的要因により、名前の通り朝晩と霧が発生しやすく、富士山噴火により降り注いだ火山灰質の地形により農作物の生育が悪く酪農専業地帯です。1946年（昭和21年）に戦後の食糧難対策として開拓されたようです。1956年（昭和31年）より始まったパイロットファーム事業よりも10年ほど早い時期になります。パイロットファーム事業と同じく、ホルスタインではなく、ジャージー牛の導入からのスタートのようでした。朝霧地区の開拓では近隣に湧水地や河川はなく、保水力の乏しい地質で、雨水を溜めてボウフラが湧く水を飲んで渴きを潤したという逸話もあるそうです。西別川や標津川といった、河川に恵まれている別海町とはこの点に関しては事情が異なるようです。

土壌は溶岩のクロボクと呼ばれる表土の下にフジマサと呼ばれる固い火山灰土が存在し、鍬での開墾は困難だったようです。大型の重機でフジマサを砕き、牧草地化したそうです。開拓されていない林に入ると富士山溶岩の硬い表面が剥き出しになっている場所が多くあります。根釦の開発では原生林の伐採や張り巡らされた根の除去に大きな労力が必要だったということです。現在の表情は似通っていても、下にあったものは大きく違うようです。

静岡出身であるという話をすると道民からは「温かくて羨ましい」と言われることが多いのですが、1月の最低平均気温は-7度（別海：-13度）、最高気温は5度（別海：-1度）で意外と寒くなりますし、雪も少し降ります。意外と寒いです。雪があまり無いせいなのか、体感は朝霧の方が寒かった気がします。しかし、9月の平均気温は18度（別海：17度）と夏は別海とあまり変わらないようです。私の実家にはあまりゴキブリは出現しません。夏の気候的に北海道と似ているからなのでしょうか？

草地に関しては、チモシー主体で3番草まで収穫し、ほぼほぼサイレージに利用され、あまりロールを作っている農家さんはいない印象です。同じ富士宮市内の朝霧よりも標高の低い地域では、小規模ながらデントコーンの栽培も行われているようです。首都圏も近く、食品工場も近隣に多いため、エコフィードも利用されています。静岡らしく、お茶カスやみかんの搾りかすなどをTMRに混ぜたり、発酵サイレージにしている農場もあります。乾草は輸入に頼っている農場が多数です。中央高速と東名高速の中間点に位置しているため、首都圏や名古屋といった大都市からのアクセスも良く流通に関しては最高の立地だと思います。

酪農地帯としての規模ですが、令和2年の酪農家個数は42戸（別海：654戸）、乳牛総飼養頭数5,203頭（別海：110,6791頭）、草地面積700ha（別海：63,300ha）、生乳出荷量40,383t（別海：501,239t）。と別海町の方が断然大規模です。消費に関しては半分以上が静岡県内で消費されているようでした。私が小中学生の頃は、隣町の乳業会社から購入した牛乳を給食の時間に飲んでいたので、最近では地元産の牛乳



が飲まれているそうです。すこし羨ましいです。静岡らしく、地元ではお茶の混ぜ込みご飯が給食に出ていました。ちなみに、地元のイオンモールでは別海の牛乳屋さんは普通に売られています。大まかになってしまいましたが、このような地域です。

ほぼほぼ、地元の紹介になってしまいましたが自分が酪農に初めて関わった地域と今いる地域のことを調べて見ると、多くの先人たちの苦労の上に成り立っているのだと知りました。今こうして働けているのは、そのおかげだと思います。そして、獣医師として働いている今だからこそ感じ取れることも多く、とても新鮮でした。月並みな感想になりますが、改めて、自分が初めて酪農業界に飛び込んだ朝霧という地域と今獣医として働いている別海町という地域のことを知ると、同じ景色を眺めても感じ取れるものが少し違う気がします。ルーツを知ることとはとても重要なことなのだと思います。

最後まで読んでくださりありがとうございました。

静岡はいいところなので是非お越しください。

望月

参考

富士開拓農業共同組合ホームページ (<https://www.fujikaitaku.or.jp/category2/>)

ブックちゃんのふじのみや探検 2017年10月20日号

ふじあざみ 第39号

別海町ホームページ (<https://betsukai.jp/agriculture/>)

別海町の農業1 発展 根釧パイロットファームから新酪農村建設事業